

令和6年度(上期)

経営発達支援計画に基づく短期目標に係る総合評価

1. 地域経済動向調査

評価対象事業

- ・管内の小規模事業者の景況調査経済動向資料の分析・作成
- ・公的機関が発行する資料の整理・分析、調査事項に対する分析・公表

実施状況

管内の小規模事業者80者を対象に、6月と9月に経済動向調査を行い公表した。
併せて公的機関発行の景況に関する資料を収集し、公表資料に盛り込んだ。

評価・コメント

委員からは「多可町の経済の動きがグラフや図を使って分かりやすくまとめられている」「WEBを有効活用して回答の回収率を高めており評価できる」などのコメントがあった。一方で、「事業計画の策定に資料の活用を」との意見や現在調査対象としている4業種各20者(計80者)について「町内の業種の割合を踏まえた方が全体の経済動向が分かるのではないか」との指摘もあった。

対策

計画策定の支援を行う際の経済動向調査結果の活用を促す。また、町内の業種割合に応じた配分での調査に向けて方法を検討する。

2. 経営状況の分析

評価対象事業

- ・本気で「経営力強化」に取り組む規模事業者の募集
- ・重点支援先を対象としたキックオフセミナー・経営分析セミナーの開催
- ・ローカルベンチマークを活用した経営分析の実施

実施状況

重点支援先は30者確保できたものの、このうち新規事業者は10者、昨年度からの継続事業者は9者、3年以上の受講者が11者となり、新規の参加事業者の割合が少なかった。

今年度は初回のセミナーを本気の事業者の目的やデザイン経営の考え方を明確に示す内容のセミナーを「キックオフセミナー」と位置付けて5/30に実施した。その上で6/5と6/12にローカルベンチマーク(以下、ロカベン)の作成に向けた経営分析セミナーを実施した。

ロカベンを活用した経営分析では、キックオフセミナー開催前に決算書を預かって財務分析を行った。経営分析セミナーでは、昨年度の参加者から「ロカベンの作成が難しい」という声が多かった反省を踏まえて、講師と相談してロカベンの前段階となる「ワークシート」をセミナー内で作成し、これを転記することでロカベンの7割が完成できるよう工夫した。これにより「とても分かりやすくなった」との評価を得ることができた。9/30時点で、経営分析の目標件数30者のうち23者と未提出の事業者があるため、下期での全社策定を目指す。

評価・コメント

本気の事業者の取組について「やる気のある事業者に対象を絞ることはよい」とのコメ

ントがあったが、新規事業者の参加が少なかった点に関して「継続参加が半数程度になるとよい」の評価もあった。

ローカルベンチマークに関しては「ワークシートを作成して分かりやすくしたのはよかった」「機会が無ければ自社を振り返る機会が少ないので有効」といった評価があった他、「事業者と職員の対話ツールとして活用し、難しい場合は専門家の活用を」との提案もいただいた。

対策

経営分析の作成に遅れが生じており、目標達成と分析結果の活用に向けて専門家派遣も活用しながら取り組む。来年度からの次期経営発達支援計画では、新規の参加事業者の掘り起こしと卒業者のフォローアップが課題である。

3. 事業計画策定

評価対象事業

- ・事業計画策定セミナーの開催
- ・小売・サービス業経営戦略セミナーの開催

実施状況

本気の事業者を対象として、2回（7/17、7/24）に渡りデザイン経営を軸とした事業計画策定セミナーを開催した。セミナーはグループワークを主体に開催し、異業種交流を兼ねて他社の話を聴いて相互に吸収することを意識して実施した。セミナーの最後では2班に分かれて一連のセミナーを踏まえて事業者それぞれの所信表明をしていただいたことで、受講者からは「気持ちが引き締まった」との声もあった。9月末時点で本気の事業者15者、創業者8者が事業計画書を策定している。

また、今年度初の試みとして9/20に小売・サービス業経営戦略セミナーを開催した。SNSや無料のHPの活用を中心とした研修で、情報発信に関心が高い方に多く受講いただき、受講者からは「学んだ内容をすぐに実務に反映させたい」との声が寄せられた。

評価・コメント

委員からいずれも20人以上が参加したセミナーの出席率について高評価をいただいた他、グループワークを通じて異業種交流ができていくことについて「自社の経営のヒントになることもあり良い取組」との評価を得ることができた。一方で、事業計画の策定状況について「50%は少ない」「計画策定に関しても専門家派遣の活用を」との意見があった。また「ロカベンと事業計画シートを合体できないか」との意見も見られた。

小売・サービス戦略セミナーに関しては、「即事業に結びつく良い取組」との評価をいただいた。

対策

事業計画の提出状況にも遅れが生じている。提出状況に応じて事業者をランク分けするなどの工夫をしながら、経営分析と同様に専門家派遣を積極的に活用し、事業者のフォローアップを強化することで、参加全事業者の計画策定を支援していく。

4. 事業計画策定後の実施支援

評価対象事業

- ・巡回・窓口相談によるフォローアップ
- ・ITの積極活用によるフォローアップ

- ・異業種交流の取組

実施状況

本気の事業者(30者)、創業者(4者)に対するフォローアップを行い、9/30現在で延べ198回の支援(巡回相談・窓口相談)を実施した。

ITの活用に関しては、商工会の無料ホームページサービス「グーペ」に関する利用方法のセミナーや個別相談を実施した。また、商工会の公式LINEアカウントを活用して省力化補助金や中小機構のITポータルサイトに関する情報提供を行った。

また、本気の事業者のOBで組織するDPIで異業種交流と人手不足課題の解決に向けて取り組んでいる多可高校での「JOBトライやる事業」に関しても現状を報告した。

評価・コメント

フォローアップの順調な推移について評価をいただいたが「フォローアップで把握した事業者の売上状況の報告があればよかった」との意見もあった。特に、IT活用によるフォローアップに関して「グーペ」の活用への期待が高く「HP未開設の事業者への活用推進を」とのコメントがあった。

また、「JOBトライやる事業」に関しても「ぜひ活用したい」「教育と雇用の両面で効果を高めてほしい」など高い期待が寄せられた。

対策

下期には創業塾やDXセミナーを予定している。経営分析や事業計画策定に関するフォローアップを継続的に実施していくほか、SNSや「グーペ」を活用してITによる情報発信の裾野を広げるフォローアップにも注力していく。

5. 需要動向調査

評価対象事業

- ・ヒトを対象にした需要動向調査（高齢者）
- ・モノを対象にした需要動向調査（衣生活・多可町の食）

実施状況

それぞれ兵庫県中小企業診断士協会と連携して実施中のため、上期の時点での状況を報告した。ヒト(高齢者)を対象とした需要動向調査では、多可町生涯大学「多可学園」の受講者を対象に実施し、111サンプルを回収した。現在集計中で11月中旬に本気の事業者を対象にフィードバックを行う予定である。

モノを対象にした需要動向調査のうち多可町の食の調査は「牛×鶏合戦スタンプラリー」に合わせて10月から11月初旬に、衣生活の調査は11月に開催予定の「第19回多可町ふれあいまつり」での実施を予定している。

評価・コメント

いずれの調査も分析中もしくは未実施であり「できるだけ多くのサンプルを集めて分析を行って欲しい」「円滑な調査の実施を期待」などのコメントが見られた。

対策

現在実施中のため下期に集計・分析結果を踏まえて報告する。実施にあたっては調査結果をなるべく早くフィードバックできるよう、計画に沿って調査報告書の作成を行う。

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業

評価対象事業

- ・地場産業・地域資源の商品・サービス開発の支援
- ・広報支援及びIT活用による支援

実施状況

地場産業・地域資源の商品開発等に関する支援では、多可町特産品開発支援補助金の情報発信を行った他、LINEで商品の開発やブランディング、販路開拓につながる全国連や兵庫県主催の事業の情報提供を行った。また専門家派遣でも新商品開発に関する3件の相談に対応した。

また、前回の検証委員会で積極的な活用の提案をいただいたことから事業者に向けて多可町定例記者発表の利用を呼びかけた。また当会が実施する事業(プレミアム商品券発行、多可町お買い物便利帳発刊、創業塾開講、「牛×鶏合戦」スタンプラリー開催)についても定例記者発表会での情報発信を行った。

播州織と食の2つの展示会出展支援に関しては、下期に実施予定であるため出展予定の展示会と申込状況についてのみ報告した。

評価・コメント

展示会の出展支援を受けた委員からは「次の特産品の販路開拓の取組として展示会等への出展は重要。出展支援の継続を」との意見があったが、他の委員からも「積極的な展示会出展は事業者にとって心強い支援になる」とのコメントが寄せられた。

また、記者発表に関しては「より多くの事業者が参加できるように」との要望があった。

対策

商品開発の支援から展示会出展による販路開拓まで一連の支援につなげていきたい。

下期には合同記者発表会を予定している。より多くの事業者に情報発信をしていただけるように、多可町定例記者発表の場を活用しながら個人のプレスリリース支援を強化していきたい。

総括

全体を通じての意見として「上期は計画に基づき順調に支援ができている」などの評価を複数の委員からいただいた。また「評価、反省、改善で反省・改善が見られ高く評価できる」といったコメントとともに、引き続き下期でも継続的な支援への期待を寄せていただいた。

● 評価委員による項目別チャート

